

全日本学生柔道体重別団体優勝大会

柔道部男子

筑スポ

平成22年度全日本学生柔道体重別団体優勝大会(男子12回 女子2回)

主催/社団法人全日本学生柔道連盟 毎日新聞社 主管/関西学生柔道連盟  
後援/文部科学省 兵庫県 尼崎市 兵庫県教育委員会 尼崎市教育委員会 尼崎市体育協会 財団法人尼崎市スポーツ振興事業団 財団法人全日本柔道連盟 近畿柔道連盟 尼崎柔道協会 NHK スポーツニッポン新聞社  
特別協賛/東建コーポレーション株式会社 大塚製薬株式会社 総合警備保障株式会社 ミズノ株式会社 協賛/NEC 株式会社ダイワコーポレーション 羽田ターナルサービス株式会社 三菱電機株式会社 株式会社佐々木冷蔵



7年ぶり2回目 優勝!!

目次  
2面  
3面  
秋の結果

4面  
つくばCUP特集  
裏方コーナー!

5面  
パスツァー&  
サークルPR

6面  
女ハソン優勝!  
スポテ

10月29日から30日に、兵庫県で開催された全日本学生柔道体重別団体優勝大会。この大会で、本学柔道部男子が優勝を飾った。

男子では今年で12回目を数えるこの大会。体重別の7階級による団体戦で優勝を決する。9月の世界選手権の66kg級の覇者・森下純平選手(体育2年)を擁する本学は、シードのため2回戦からの登場となった。

2回戦は拓殖大学に7-0、3回戦は順天堂大学に6-1と圧勝で危なげなく突破。準々決勝は苦しみながらも、日本柔道強化メンバーに名を連ねる66kg級の森下選手・90kg級の西山大希選手(体育2年)、キャプテンを務める73kg級の栗野靖浩選手(体育4年)がいずれも一本勝ちを収め、内容勝ちで準決勝にコマを進めた。

準決勝の相手は国士館大学の副将の栗野選手が敗れ、勝利の行方は大将の西山大希選手(体育1年)に託された。重圧のかかる場面ではあったが、西山選手は見事勝利。勢いをつけた本学は、いざ決勝の舞台へ。決勝戦の相手は昨年優勝の東海大学。今夏の日全日本学生柔道優勝大会では3連覇している。先鋒・藤田湧平選手(体育2年)が一本で勝利を収める。しかし、なかなか勝利できず、接戦に持ち込まれる。

以降勝利はなかったが、引き分けで粘った。前半戦の勝利が効き、一本の数で東海大学を上回った。本学の優勝は7年ぶり、2度目となる。優秀選手には森下選手と西山選手が選出された。

一方女子は、優勝候補に挙げられていたが、準々決勝、帝京大学に2-3で惜しくも敗退。連覇はならなかった。今大会で本学男子は優勝を果たしたが、59回を数える全日本学生柔道優勝大会では、今年がベスト16と、未だ優勝経験がない。来年は悲願の初優勝が待たれるところだ。

12月11日から13日の3日間、柔道グランドスタジアムで開催される。本学は、男子から森下選手、栗野選手、西山大希選手(体育2年)の3選手、女子からは78kg級の緒方亜香里選手(体育2年)が出場する。世界選手権で活躍を続ける本学の選手たちであるだけに、こちらの大会でも活躍が期待される。

また11月20日・21日に開催された講道館杯全日本柔道体重別団体優勝大会には、本学から16名の選手が出場した。男子は66kg級で小寺将史選手(体育2年)が、女子では57kg級の牧志津香選手(体育3年)が見事優勝を果たした。また西山選手も男子73kg級で3位となった。

今大会はどのような大会でしたか? 4年生は団体としては最後の大会でした。また6月の全日大会について

後輩の活躍を主将としてどう見えていますか? 今大会で優勝できたのも、後輩たちのおかげだと思います。東海大学に勝って優勝ができて良かったです。

主将として日頃の練習時などに心掛けていることはありますか? 筑波大柔道部は先生に指示されるのではなく、「自分で考える」というのが方針です。なので、選手自身が考えて練習に取り組みなくてはなりません。とくに試合前の練習では張りつめた雰囲気だして、(小島菜奈美)

第12回全日本学生柔道体重別団体優勝大会

|      |     |     |           |
|------|-----|-----|-----------|
| 2回戦  | 筑波大 | 7-0 | 拓殖大       |
| 3回戦  | 筑波大 | 6-1 | 順天堂大      |
| 準々決勝 | 筑波大 | 3-3 | 日本大(一本勝差) |
| 準決勝  | 筑波大 | 4-3 | 国士館大      |

|    |      |      |           |
|----|------|------|-----------|
| 決勝 | 筑波大  | 2-2  | 東海大(一本勝差) |
| 先鋒 | 藤田湧平 | 引分   | 蓬田克也      |
| 次鋒 | 森下純平 | ○内股透 | 前野将吾      |
| 五将 | 藤原浩司 | ○合技  | 豊田竜太      |
| 中堅 | 金子亮平 | 指導2○ | 羽賀龍之介     |
| 三将 | 西山大希 | 引分   | 吉田優也      |
| 副将 | 栗野靖浩 | 合技○  | 長島啓太      |
| 大将 | 西山雄希 | 引分   | 中矢力       |

優秀選手  
森下純平(体育2年) 西山雄希(体育1年)



栗野靖浩選手  
本学生柔道大会で明治大学に負けたことで部員みんなの気持ちも強くなったことが優勝につながったのだと思います。

栗野選手について  
— 今大会の山場はどこでしたか?  
— 準決勝の国士館大学で自分が負けたことにより、同点になってしまいました。最後、西山大希選手(体育1年)が勝ってくれたことで、なんとか決勝に上がったことが印象に残っています。

最後に筑波大学柔道部にむけてメッセージをお願いします。  
— 最後は筑波大学柔道部にむけてメッセージをお願いします。いいところはそのままに、悪いところは直して勝てる集団になってほしい。

筑波スポーツ  
平成22年12月14日(火) 第141号  
題字: 中山雅史氏 蹴球部OB







# 1部4位!!



セッターの渡邊穂穂選手(体育4年)がトスを左右にあげ、相手のブロックを振り切ることも増えた。レフトの池田智美選手(体育1年)、野末夏子選手(体育3年)を中心に、絶妙なコースにアタックが決まる。筑波大が東海大を圧倒して、25-15でこのセットを取り、勝利へ望みをつないだ。そして迎えた第4セットは、互いに一本ずつ取り合う展開となった。やがて徐々に東海大が押し始め、7-12と一歩から反撃に出た。緩急をつけアタックで、8連続得点。15-12と逆転に成功した。勢いづく筑波大だが、ここでテクニカルタイムアウト。これが筑波ベースを断ち切ることに。18-15とした後は、完全に東海ベース。筑波大は、長いラリーなどで粘ったが、最後は東海大の9番のバックアタックに対応できず、連続得点を許して21-25、セットカウント1-3で敗れた。

## 秋季関東大学女子1部バレーボールリーグ戦

- 優勝 嘉悦大学
- 2位 東海大学
- 3位 日本体育大学
- 4位 筑波大学

- ### 個人賞
- サーブレシーブ賞 岩永麻里江(体育4年)
  - スパイク賞(スパイク決定率) 高橋那衣(体育3年)
  - ベストスコアラー賞(最多得点) 池田智美(体育1年)



サーブレシーブ賞を受賞した岩永麻里江選手(体育4年)が輝いた。

10月17日(日)、秋季関東大学女子バレーボールリーグ戦女子1部(以下、秋季リーグ)の試合を観に、青山学院大学記念館へと足を運んだ。

この日は秋季リーグ最終日。筑波大学は暫定2位の東海大学と対戦した。春季リーグでは2位だった筑波大は、暫定4位。既に嘉悦大学の優勝が決まっていた。

午後一時、試合開始。立ち上がり、東海大がアタックやサーブエースで順調に得点を重ね、4-9と筑波大を引き離す。しかしここで筑波大はタイムアウトを取って流れを切り、9-10まで追いついた。ところが今度は東海大がタイムアウトを取り、そこから怒濤の10連続得点。そのまま東海大を止められず、14-25で第1セットを落とした。

続く第2セットも序盤から東海ベース。第1セットと比べてチャンスを作れるようにはなつたものの、決めきれない。守っても、東海大の豪快なアタックに、2枚ブロックをも打ち抜かれる。それでも後半からは、相手ブロックを外せるようになり、アタックも決まりだした。結局、前半に離された分が響いて第2

セットも21-25で落としたが、筑波大に流れが来ているようだった。第3セットはその流れのまま、最終筑波ベース。アタックコースを読み切り、ブロックのタイミングもぴったり。面白そうに決まる。主将でセッターの渡邊穂穂選手(体育4年)がトスを左右にあげ、相手のブロックを振り切ることも増えた。レフトの池田智美選手(体育1年)、野末夏子選手(体育3年)を中心に、絶妙なコースにアタックが決まる。筑波大が東海大を圧倒して、25-15でこのセットを取り、勝利へ望みをつないだ。そして迎えた第4セットは、互いに一本ずつ取り合う展開となった。やがて徐々に東海大が押し始め、7-12と一歩から反撃に出た。緩急をつけアタックで、8連続得点。15-12と逆転に成功した。勢いづく筑波大だが、ここでテクニカルタイムアウト。これが筑波ベースを断ち切ることに。18-15とした後は、完全に東海ベース。筑波大は、長いラリーなどで粘ったが、最後は東海大の9番のバックアタックに対応できず、連続得点を許して21-25、セットカウント1-3で敗れた。

試合後、渡邊選手に話を聞いた。

「インカレ前の最後の試合なので、いい感じに締めくくりたい、という気持ちがあった。だから、自分たちのプ

レィが出来るように、と思って試合に臨んだ。

「今はサーブキャッチが乱れると、連続失点してしまう。パワーのある東海大と違って、筑波はすごいサーブキャッチが多いのに対して、筑波大はセッターとリベロ以外でコートに入るのは、ほぼ3年生以下。4年生が直接得点を叩き出せるわけではない。だから、自分達二人が一層しっかりしなければ」と思っている。

「勝っている時は、後輩達の方が強かったらだと思ってる。負けている時は自分の気持ちはまだ足りなかったから、だと思ってる。気持ちをつなげられた時は後輩達が決めてくれるので。」

岩永選手が、アタッカーと後輩が気持ちよく打てるように、一、二本目を4年生でしっかりとつないでいきたい」とそうだ。

連覇にかかるインカレの結果は次号で。代が変わった女子バレー部の応援にも足を運んでみてはいかがだろうか。

# 女子バレー 東海戦

## 対



4年生にとっては最後の関東リーグ。後輩から色紙と花をもらった。

# 秋季・観戦記

# 健闘!!ラグビー 早稲田に惜敗



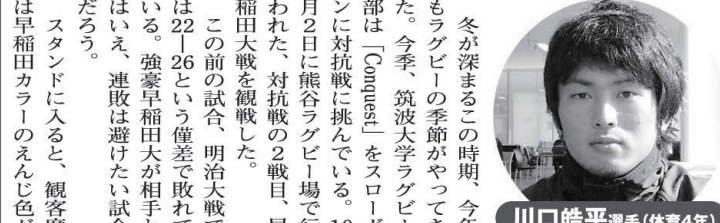
主将の川口皓平選手(体育4年)がこの試合を振り返ってもらった。

た筑波大だが、後半になると逆に早稲田大に押し込まれ、自陣でのプレーが増えしてしまう。次第にスクラムが崩れ始め、早稲田大に4トライ、3ゴールを決められ逆転されてしまう。諦めかけたその時、意地のトライを決めたのが彦坂匡克選手だった。彦坂はこれからの期待がかかるだろう。「今年は、実力差はあまりないと思っていたけど、なかなか結果がついてこなかった。筑波はこれからのチーム。早稲田大戦のときのようにはファンが少なくなると、自分たちが少なくなると、26-34で敗れた。」と語ってくれた。

対抗戦の前半で悔しい思いをしたラグビー部。今年の対抗戦での初勝利は第4戦、11月3日の立教大戦(於ニッパツツツ沢)だった。スコアは67-3で筑波大の圧勝。ここからは負けられないと語っていた主将の言葉通り、見事な勝利を取った。さらに21日の成蹊大戦でも44-7で勝利し、対抗戦5位が確定。12月11日の筑波大戦で、さらには来年の対抗戦に期待しよう。

今年ラグビー部にとって、悔しさも手応えもあった対抗戦となったことだろう。大学選手権、さらには来年の対抗戦に期待しよう。

(大庭夏海)



川口皓平選手(体育4年)

冬が深まるこの時期、今年もラグビーの季節がやってきた。今季、筑波大学ラグビー部は「Conquest」をスローガンに対抗戦に挑んでいる。10月2日に熊谷ラグビー場で行われた、対抗戦の2戦目、早稲田大戦を観戦した。

この試合、明治大戦では22-26という僅差で敗れている。強豪早稲田大が相手とはいえ、連敗は避けたい試合だろう。

スタンドに入ると、観客席は早稲田カラーのえんじ色が

目立っていた。逆に筑波カラーのライトブルーはなりを潜め、「桐の葉」を歌う人は少ない。完全にアウェーの雰囲気でのキックオフ、試合が始まった。前半、筑波が敵陣で奮闘を見せる。開始から8分、相手にペナルティゴールで先制点を奪われるも、その後のスクラムは押し込まれずに果敢に攻める。そして、樺島亮太選手(体育2年)、双子の彦坂匡克選手、主将選手(ともに体育2年)の連続トライで逆転。トライ後のゴールも小林良輝選手(体育4年)がきっちり決め、その後も早稲田大に1トライも許さず、21-8で前半が終了した。

後半もこのままの勢いで行きたいところだった。しかし、前半敵陣でのプレーが多かつ

### ラグビー関東大学対抗戦A (12/2現在)

- 9/19 ●筑波大 22 - 26 ○明治大
- 10/2 ●筑波大 26 - 34 ○早稲田大
- 10/17 ●筑波大 10 - 12 ○帝京大
- 10/24 ●筑波大 15 - 19 ○慶応義塾大
- 11/3 ○筑波大 67 - 3 ●立教大
- 11/21 ○筑波大 44 - 7 ●成蹊大学

### 結果一覧

- 男子アイスホッケー部
  - 10月30日 筑波大 1-4 駒澤大
  - 11月6日 筑波大 0-8 東海大
  - 11月21日 筑波大 0-7 神奈川大
- アメリカンフットボール部
  - 関東学生アメリカンフットボール秋季リーグ戦
    - 10月17日 筑波大 21-43 武蔵大
    - 10月31日 筑波大 13-27 東農大
    - 11月13日 筑波大 24-34 東洋大
- 関東学生弓道選手権大会決勝
  - 男子個人 3位 神野皓平
  - 女子個人 4位 湯山可奈子
- 関東学生剣道新人戦大会
  - 優勝 筑波大学
- 硬式野球部
  - 首都大学野球秋季リーグ戦
    - 10月16日 筑波大 0-5 1 武蔵大
    - 10月17日 筑波大 1-3 0 武蔵大
    - 10月18日 筑波大 2-3 0 武蔵大
    - 10月18日 筑波大 2-3 0 武蔵大
    - 最終成績 3位 7勝6敗
  - 関東大学作家リーグ戦後期
    - 10月15日 筑波大 0-4 3 法政大
    - 10月23日 筑波大 0-2 1 慶応大
    - 11月2日 筑波大 0-0 明治大
    - 11月6日 筑波大 0-5 2 駒澤大
    - 11月13日 筑波大 0-6 2 神奈川大
    - 11月21日 筑波大 0-5 3 中央大
    - 最終成績 2位
    - 13勝5敗4分
- 女子サッカー部
  - 関東大学女子サッカーリーグ
    - 10月17日 筑波大 0-3 早稲田大
    - 10月24日 筑波大 0-0 尚美学園大

### 陸上競技部

日本ジュニア陸上競技選手権大会

- 男子
  - 100m 7位 村吉星児 10秒73
  - 800m 3位 阪本大樹 1分55秒32
  - 1100mハードル 1位 川人敏志 15秒01
  - 8位 川人敏志 15秒01
  - やり投 2位 眞里谷健司 67m58
  - 円盤投 7位 前田奎 49m05
  - ハンマー投 8位 池田和彦 59m35
  - 走高跳 優勝 戸直直人 2m24
  - 棒高跳 4位 影山湧亮 5m00
- 女子
  - 100m 優勝 世古和 10秒73
  - 800m 4位 真下まなみ 2分11秒64
  - 1000mハードル 3位 相馬絵里子 13秒74
  - 円盤投 2位 糸満みや 47m41
  - ハンマー投 5位 糸満みや 48m98
  - 三段跳 2位 大坂政理 12m05
  - 棒高跳 優勝 榎本優子 3m70

### 陸上競技部

Japan Licensing Super Series

- 海救 湯河原ラウンド
  - 女子5000m 5位
  - 女子10000m 6位
  - 女子マラソン 6位
  - 女子5000m 6位
  - 女子10000m 6位
  - 女子マラソン 6位
  - 女子5000m 6位
  - 女子10000m 6位
  - 女子マラソン 6位
- 上原紇子 6位



# つくばはCUP 2010



今年もつくばCUPの季節がやってきた。蹴球部主催で開催されるこの大会も、今年で4回目を迎える。サッカー同好会・医学サッカー部・そして蹴球部からの4チームの計6チームが熱戦を繰り広げた。

当初は公式戦がないチームの経験の場として開催されたつくばCUP。しかし現在は蹴球部内発のチームが公式戦に参加。この状況下、つくばCUPの意義は何だろうか。今年「医学サッカー部と

サッカー同好会との交流・相互レベルアップ」をコンセプトに掲げたという実行委員長の堀内翔太さん(体育2年)。

それに向けて、宣伝活動を共にして、試合結果や見所、各チームのコメントを試合毎に周知して貰った。蹴球部はそれに加え、出場選手自らが自身の指導する少年サッカーチームへ試合の告知をした。その成果もあり、休日は親子での来場が10組以上あったという。

「学外への宣伝方法や観客の楽しませ方、試合の緊張感を維持することなど、新しくしていきたい所が多くあつた」と今後の課題を堀内さんは挙げた。このように公式戦以外にも、広報や運営方法の経験を積み、次に生かしているのが、つくばCUPだ。

当初の目的は薄れつつあるが、熱意ある運営者、そして「選手としての自分には大きな試合だった」と堀内さんも話した通り、他の公式戦がある中でもつ

くばCUPを重視する選手。そしてつくばCUPを楽しむ人々。彼らがいる限り、つくばCUPは大きな存在だ。

「続けて開催することに意味がある。堀内さんは現在のつくばCUPについて語る。4回と歴史は浅いが、「続ける」ことでまた新たな意味が生まれてくるだろう。(斉藤千絵)

前日から降り続いた雨は止んだものの、冷たい空気がピッチを支配した第一グラウンド。11月23日、ここを舞台につくばCUP決勝の熱戦が繰り広げられた。

過去3回の優勝チームは蹴球部、同好会、蹴球部のメンバーで構成されたTSC・a。昨年の覇者・サッカー同好会。昨年同様、蹴球部を破って勝ち進んできた同好会にとつては覇権奪回が、対するTSC・aは蹴球部として追いつきたいTSC・b。相手ゴール前、深くえぐった位置からのクロスが村野大樹選手(体育4年)が押し込み、ようやくTSC・bが1点を返した。最後の公式戦となる四年生選手のゴールに、スタンドも大きく沸いた。だが蹴球部Cは馬場勝寛選手(体育2年)のシュートによりさらに点を重ね、結果3・1で蹴球部Cが勝利した。

決勝は、先日行われた試合で先に2勝を挙げたサッカー同好会(以下サカ同)が進むこととなった。決戦の相手は蹴球部のチーム「Tsukuba Syokyu Club・a」である。サカ同は一昨年のつくばCUPで優勝しており、決勝では、レベルの高い試合が予想される。(上杉織美)

コンディション。お互い思ったようにパスが回せない。しかし、蹴球部員の熱の籠った応援に背中を押されるようにして、TSC・aが徐々にペースを掴み始める。13分、TSC・aFW太田博人選手(体育2年)がGKとの1対1からシュートを放つもネットを揺らすことはできない。ただ、これを皮切りに試合が動き始める。

TSC・aはその後次々に同好会ゴールを脅かすが、先制点が遠い。すると26分、同好会も1本のパスから決定的なチャンス。現時点で得点ランクトップのFW辻祥平選手(社工2年)がゴールを狙うも、枠を捕らえ切れない。均衡が破れたのは前半28分、先制したのはTSC・a。ペースを握っていたTSC・a。FW太田選手がドリブル突破で抜け出すと、最後はFW二木直人選手(体育3年)が冷静に流し込んで1・0とする。

この1点で俄然動きが良くなったTSC・aは36分、先制点を決めた二木選手とGKとの1対1からシュート。一度は止められたものの、こぼれ球を再度押し込み2

10月18日、ジョイフル本田対医学サッカー部の試合が寒空の下で行われた。

試合序盤は医学サッカー部が攻め込む。25分には強烈なシュートを放つものの、キーパー照屋健選手(体育3年)が好セーブ。しかしピンチは続く。34分には医学サッカー部はCKを得、ゴール前の混戦から3度押し込むものの、いずれもキーパーが好セーブ。決定的な得点期を逃した。その後はジョイフル本田が次第にボールを支配し始めるが、ゴール前に持ち込むことができない。ジョイフル本田に惜しいシーンが続くが、双方決まぬまま、前半はジョイフル本田の原宏敏選手(体育4年)の1点のみ折り返す。後半は前半と打って変わってジョイフル本田がボールを圧倒的に支配。しかし医学サッカー部の守備を抜くことができない。中盤での競り合いが続く。後半16分には田

之上明宏選手(人科1年)のスーパーパスに高橋慧選手(人文3年)が素早く反応するものの、シュートはゴール左にそれてしまう。後半30分にはFKを獲得するが、田之上選手はそのまま決定機を逃すかと思われたが33分柳井隆志選手(体育3年)からの右サイドのクロスに大島琢選手(人科1年)がヘッドで合わせ、ゴール。このゴールを皮切りに、ジョイフル本田が攻め込む。39分には原選手がキーパーと一対一の決定機を得るが、枠を大きく外してしまう。しかし42分には大島選手がこの日2点目となるゴールを決める。試合はジョイフル本田が苦しみながらも、最後は圧倒して3・0で勝利した。

この日は蹴球部員と医学サッカー部員の熱い声援とともに、グラウンド周辺を通りかかった人も足を止めて試合を観戦していた。(斉藤千絵)

西日が強く照りつける午後。本学第一グラウンドにて、筑波大学蹴球部C(以下蹴球部C)対「Tsukuba Syokyu Club・b(以下TSC・b)」の試合が行われた。

11月7日に開催されたBブロックの予選では、蹴球部同士の戦いということもあり、多くの蹴球部員が応援に駆け付けていた。また、日頃サッカー普及活動の一環として、蹴球部の部員がコーチを務める、少年サッカーチームの子どもたちも応援に来ており、かわいい声援がさらにスタンドを沸かせた。

開始直後、先制したのは蹴球部C。セットプレーから相手GKと交錯しながら大藤恵人選手(体育1年)がヘッドで押し込んだ。TSC・bも負けまいと果敢に相手ゴールへと攻める。しかし試合は蹴球部Cの一点リードのまま前半を終えることとなる。後半、先にゴールネットを

揺らしたのはまたも蹴球部C。濱田裕太選手(生物資源3年)はミドルシュートを豪快に蹴り込んだ。何とかして追いつきたいTSC・b。相手ゴール前、深くえぐった位置からのクロスが村野大樹選手(体育4年)が押し込み、ようやくTSC・bが1点を返した。最後の公式戦となる四年生選手のゴールに、スタンドも大きく沸いた。だが蹴球部Cは馬場勝寛選手(体育2年)のシュートによりさらに点を重ね、結果3・1で蹴球部Cが勝利した。

決勝は、先日行われた試合で先に2勝を挙げたサッカー同好会(以下サカ同)が進むこととなった。決戦の相手は蹴球部のチーム「Tsukuba Syokyu Club・a」である。サカ同は一昨年のつくばCUPで優勝しており、決勝では、レベルの高い試合が予想される。(上杉織美)



この1点で俄然動きが良くなったTSC・aは36分、先制点を決めた二木選手とGKとの1対1からシュート。一度は止められたものの、こぼれ球を再度押し込み2

点目リードを広げる。同好会を運動量で上回り、ボールのあるところで常に数的有利を作るTSC・a。43分にはCKからニアサイドに飛び込んだのはまたも二木選手。自身ハットトリックとなるゴールを頭で挙げ、試合を決定付けた。

後半に入っても、TSC・aが圧倒的にボールを支配。前半の3得点で今大会の得点ランクトップに並んだ二木選手にボールを集める。だが、これ以上の失点は避けたい同好会もGK住谷和人選手(社工3年)を中心に必死の守備でゴールを許さない。

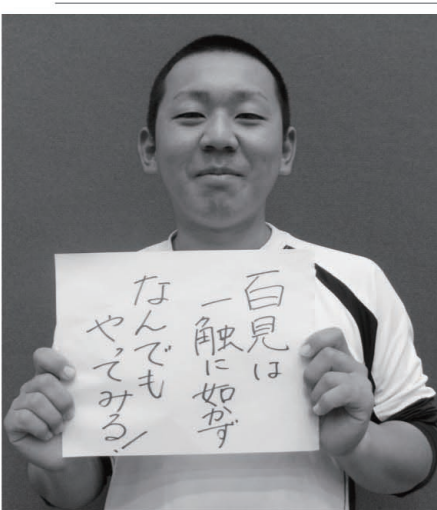
後半23分、同好会は相手のオウンゴールを誘い、ようやく1点を返すも反撃はこまらぬ。最終試合を支配したTSC・aが3・1で同好会を制し、優勝を飾った。

つくばナインワンを決めたのはTSC・aの優勝という形で幕を閉じた。しかし、予選で波乱を演じた同好会もまた、称賛に値する準優勝であったろう。来年はどんなドラマが待っているのか。彼らの熱く、激しい戦いに期待したい。

(有田和晃・石岡和彦)

決勝戦3得点を決めたTSC・aFW二木直人選手「みんなの力で優勝できたと思う。ハットトリックは味方がいいボールをくれたから後半に4点目が獲れなかったのは今後の課題だが、とにかく同好会、医学が参加した「つくばの大会」で優勝できたことが嬉しい。」

## 裏方硬式野球部 コーナー



\*\*\*\*\* プロフィール \*\*\*\*\*

神林秀彰(体育4年)

- ◆元・筑波大学硬式野球部トレーナー
- ◆トレーナーサークルGattsu代表
- ◆筑波大学ラクロス部トレーナー

読者40万人を超える筑波大学硬式野球部のブログは、選手やスタッフらによって日々更新されている。普段は試合内容や選手紹介などをテーマとして扱っているが、ある日、「トレーナー 神林のいい言葉」というテーマで記事が載せられていた。毎回自筆で書かれたいい言葉を写真と共に紹介するものであり、投稿者は元硬式野球部トレーナーの神林秀彰さん(体育4年)だ。

「トレーナー」という視点から更新されたブログには、「ありがとう」「迷ったら初心を思い出せ」「仲間」……などといった言葉と共に、「いつも選手のことを考え、どうしたら選手が最高の野球をできるのか」という神林さん自身の思いが綴られていた。

「トレーナーは選手にとつて一番身近な存在。マッサーをしていると選手から本音が漏れることもある。そういう選手との心の拠りどころになれるいい言葉」という思いで、トレーナーを続けてきたという。トレーナーという立場、体力トレーニングの指示やマッサーを思い浮かべがちなが、選手のメンタル面を支えるという意味でも非常に重要な役割である。

神林さんは、成功哲学や経営学などの本を愛読し、ブログで紹介された「いい言葉」の中には、そういった本の中から抜粋して紹介した言葉もある。「いい言葉は、ポストカードくらいのサイズの紙に筆で書きあげ、何十枚も書いて納得のいくものを写真にとつて投稿していました」と当時書いていたブログについて振り返る。

最後に「いい言葉」を特別に書いていただいた。「少し考える時間を下さい」と言って書きあげた言葉は「百見は一触に如かず。なんでもやってみる」。

「『百見は一触に如かず』は、ただ見ても自分が一度触れた経験には勝てないというメッセージが込められている。勉強も大事。実践も大事。自分は学生だから、経験が浅いから、という理由で簡単に妥協してほしくない」と後輩たちに得意の「言葉」でエールを送った。(上杉織美)

## つくばCUP 結果一覧

| グループA   | サカ同 | 蹴球部C | TSC-b | 順位 |
|---------|-----|------|-------|----|
| サッカー同好会 |     | 201  | 300   | 1  |
| 蹴球部C    | 102 |      | 301   | 2  |
| TSC-b   | 003 | 103  |       | 3  |

| グループB     | TSC-a | ジョイ本 | 医サカ | 順位 |
|-----------|-------|------|-----|----|
| TSC-a     |       | 301  | 200 | 1  |
| ジョイフル本田FC | 103   |      | 300 | 2  |
| 医学サッカー部   | 002   | 003  |     | 3  |



# 蹴球部



# 神奈川大学

# アメリカンフットボール部

# 宇都宮大学



11月13日土曜日、澄み渡つた秋晴れの空の下に、蹴球部の応援バスツアーが開催された。集合場所の野球場駐車場に

は少年サッカーの元気な子どもたちと父兄、学内からの参加者が多く集まった。バスツアーの蹴球部のあいさつ後、参加者全員と蹴球部員で大きな円陣を組んで、出発。

21節の対戦校はリーグ7位の神奈川大学(以下神大)。本学蹴球部は2位であるが、どんな相手にも油断はできない。しかも、この日は試合は勝てばインカレ出場決定という大事な試合であった。

試合の行われるフクダ電子アリーナへは3台のバスに乗って向かった。行きのバスの中では、選手のサイン色紙や写真などが当たるビンゴがサッカーや蹴球部についてのクイズを交えて行われ、子供たちはもちろんのこと、学内の参加者もゲームに興じた。その後、試合に出場する選手を紹介するモチベーションビデオが流され、参加者は楽しみながら選手たちについて詳しくなった。恒例の蹴球部による企画が車内を大いに賑わせ、蹴球部員による応援練習で応援の準備も万端。

前半戦のスタンは、選手達の大攻勢に盛り上がった。参加者たちは、得点の度に大きな歓声をあげ、守備陣のプレイングに熱い応援を送った。そして3、0で前半を折り返し、後半、6分に前半先制の契機となるPKを獲得した。蹴球部員が今度自ら4点目、次いで赤崎選手がこの日自身3点目となるゴールでハットトリック。赤崎選手は得点ランキング1位に浮上した。その後、神大の大戸選手の2得点で5、2とされるも、36分の八反田康平選手(体育3年)のダメ押し6点目。試合は筑波大学蹴球部が勝利し、インカレ出場を決めた。

試合後、交流会では、子どもたちが憧れの選手にサインをもらったり、写真撮影をしたりと賑やかな様子だった。そして、参加者はバスに乗り、帰途についた。最後にモチベーションビデオのDVDも加してみてはいかがだろうか。(鶴川香奈子)

11月27日。秋も深まり落ち葉の絨毯が心地よい足音を鳴らしてくれる季節に、アメリカンフットボール部応援バスツアーが開催された。参加者は駒沢第二球場にて行われた宇都宮大との試合で選手に声援を送った。バスの中では、選手からのビデオレターや



チームグッズが貰えるビンゴ大会などが開催され、参加者は移動時間にも大いに楽しんだ。ここまで筑波大は関東学生リーグ2部Aブロックで6戦全敗と、既に3部との入れ替え戦が決まっている。宇都宮大との最終戦に勝利し、入れ替え戦に弾みをつけたところである。選手がアップを開始する中、応援も始まり、盛大な応援に励まれた選手達は引き締まった表情を見せた。

試合後、主将の大竹崇選手(体育4年)から参加者に挨拶があり、入れ替え戦への意気込みを語ってくれた。ある参加者は「初めてアメフトの試合を見たが本当に面白かった。入れ替え戦も見に行きたい」と話してくれた。後日大竹選手に話を聞くと、「たっさんの方に応援に来て頂いて、プレーする際に非常に心強かった。参加者の歓喜や落胆の声が選手にも届き、色々な支えられていることが実感出来た」と語ってくれた。

是非入れ替え戦に勝利し、来年こそは1部昇格を目指して頑張ってください。(田村俊和・明本彩美・矢畑 牙佳)

## 秋季応援バスツアー

# サークル部員

高橋晃一選手 (エンス3年)



人づくり。それは少林寺拳法の最も大切にするものである。少林寺拳法は1947年、戦後間もない日本で宗道臣によって創始された武道の一つである。リーダーの質によって社会の方向性が大きく変わることを悟った宗道臣は、人々の幸福な人生や平和な社会実現のため、積極性と正義感を持ったリーダーを一人でも多く育てようという志を持ち、少林寺拳法を創始した。そのため、技術以上に人格形成に重きを置いているのが特徴である。その歴史・文化は筑波大少

小井土 理敏選手 (社工3年)



現在本学のFH部の部員は経験者と初心者それぞれ5人の計10人。初心者でも1年練習すれば試合で活躍できる選手になれる。高橋選手は陸上部からFHに入った。大学2年からFHを始めたという。人数が足りないためにFHを経験したことのない部員の友人を試合に出場させることもあった。FHは試合中の選手交代が自由なため、人数が少ないだけで不利助っ人として出てくれる選手には本当に感謝しているが、やはり部員だけでチームを組むようにしたい」と切実に語っていた。週4日ある練習のうち日曜日は、県北にある東海高校まで車で片道1時間半かけて行き、練習をしているという。「芝のグラウンドで社会人・高校生・筑波大生など茨城県のプレーヤーが総勢50名ほど集まり練習出来る。普段少ない人数で土のグラウ

# 少林寺拳法部

大会を最も大切な大会と位置付けている。先月日本武道館で行われた全日本学生大会では、男子初段の部で2位、3段以上の部で3位に加え、女子単独有段の部で3位と好成績を残すことができた。「初心者で始めても大きな大会で上位を狙えることは大きな魅力」。少林寺拳法部は初心者・経験者問わず大歓迎している。人づくりを大切に、仲間と一緒に上達に励む。ぜひ、一度武道館・古武道場に足を運んでみてほしい。(本間詩織)



# フィールドホッケー部

保の問題がありながらも、2部昇格に向けて部員全員がまとまって努力を重ねているようである。「いつまでも練習に参加できません」と言うように、初心者も大歓迎というFH部。(田村俊和)



# 女子ハンドボール部

## 秋季リーグ

# V 奪還

## 春季に続き2冠達成!!



「インカレで勝つために関東学生秋季リーグの目標は優勝であった。そう振り返ったのは、今年主将を務めた秋季リーグで最優秀選手に輝いた石野実可子選手(体育4年)が、去年の秋季リーグでは、最終戦で東京女子体育大学に敗れ06年以降守り続けてきた女王の座を東女体大に明け渡した。2010年4月17日、関東学生春季リーグが開幕した。主将の石野選手は捻挫のため春季リーグ1週目は欠場したものの、チームには強い団結力が感じられ安心して試合を観ることができたという。春季リーグは他チームを寄せ付けない強さで全勝優勝したものの、内容が悪く、多くの課題も見つかった。

チーム全体が「絶対に勝つぞ」という気持ちで迎えた秋季リーグ。4戦目である東海大学との試合には1点差で惜しくも負けてしまった。しかし、チームスタイルの守りからリズムを作ることで、シュートを生かしながら周りも動く姿勢を貫いた。最終成績を6勝1敗として、筑波は春季リーグに続き秋季リーグでも優勝を成し遂げた。

### 主将として

石野選手は、「今大会で最優秀選手賞を獲得できたのはチームみんなのおかげであって、リーグ優勝したことが何より嬉しい。」という。また、「春季と秋季の違いについては、春季リーグの全勝優勝という結果に満足せずしっかりと反

省をした。そのことで、精神的な部分で成長することができた。その成果もあり、秋季リーグで1敗しても崩れずに立て直すことができた。」

主将という大役については、「筑波大学女子ハンドボール部主将であることは、常に試合で勝たなければならぬというプレッシャーを感じることもである。しかし、責任を重く感じないように自分自身で張っていき、チームを引っ張っていくことを心がけた。先輩からの影響を受け選手同士の間に厳しさが生まれた。そのことで、選手自身が考えて行動するようになったことが大きな成長である。また、常にトップレベルにいるチームで4年間プレーすることができたことは嬉しく、筑波でハンドボールができてよかった。」と話す。

### インカレに向け

「春、秋季リーグ共に優勝という形でインカレに臨めるのは大きい。インカレでの最大のライバルは、昨年準決勝3点差で敗れた大阪教育大学である。今大会で順調に勝ち上がれば再び準決勝で大阪教育大学と対戦することになる。集大成であるインカレを最後

に4年生はチームから引退する。コートに出ている選手だけでなくベンチにいる控えの4年生の分の気持ちも抱いて頑張りたい。全員の力を勢いにして4年間の全てをぶつけたい。」と話す。

関東リーグで最優秀選手賞を授けられた石野選手をはじめとして、同じく関東リーグで優秀選手賞に輝いた山野由美選手(体育4年)、青木めぐみ選手(体育4年)、川俣ゆかり選手(体育2年)らのタレントが揃う関東の女王が、インカレで優勝し日本の女王になることを期待したい。

### インカレ結果

11月19日に大阪で、ハンドボールのインカレが開幕した。シード校の筑波は翌日20日、日本女子体育大学との初戦を22、19で勝利した。3回戦の福岡教育大学戦では、26、24と接戦をものにした。そして22日の準決勝、ライバル大阪教育大学との試合。前半は10、10の互角の戦いを見せるが、後半は突き放され23、29のスコアで敗れた。去年の雪辱は叶わなかったが、来季の活躍に期待したい。(石岡和多・有田和晃)

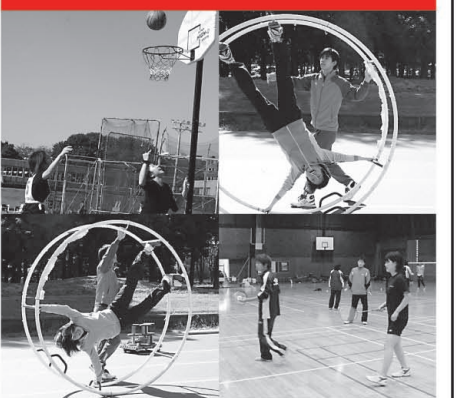


石野実可子選手

### 秋季リーグ結果表

- 筑波大 33-14 ● 茨城大
- 筑波大 28-17 ● 日女体大
- 筑波大 30-25 ● 早稲田大
- 筑波大 22-23 ○ 東海大
- 筑波大 31-29 ● 国士舘大
- 筑波大 25-22 ● 東女体大
- 筑波大 30-23 ● 日体大

# 秋季 Sports Day スポデー



今年も残すところあと半月程となりました。月日がたつのは早いですが、毎日寒く参ってしまっていますが、子どもは風の子です！

さて、わたくし事ではございますが、今号で筑スポは代替わり。最後の編集後記になります。新入部員も入り、新しくなった筑波スポーツですが、始まってみれば優秀な人材ばかりで嬉しい限りです。次の編集長は、毎回抱腹絶倒必至の編集後記を書いてくれることでしょうか。私はこれから就活に卒論に、勿論編集部員としても頑張っていきたいと思います。今号も制作にあたって、多くの方に協力いただきまして、この場を借りてお礼申し上げます。これからもよりよい紙面を作れるよう頑張っていきますのでよろしくお願ひします！

(斉藤千絵)

### 編集後記

秋晴れに恵まれた10月23日から24日にかけて、毎年恒例の秋季スポーツデーが開催された。今年も正式種目(キックベース、サッカー、バドミントン、バレーボール、ソフトテニス、駅伝)の他、学生委員会企画、サークル企画が行われた。私たちが編集部員はそれぞれの会場を回って、人一倍スポデーを楽しんだ。まずは、開会式。今年も嘉納治五郎生誕150周年を記念し、女子柔道部による柔道の型が披露された。普段目にする柔道とは全く違う、ゆつたりとした柔道の型を見ることができた。そして、応援部WINSによるデモンストレーションののち、いよいよ競技開始である。

正式種目の会場では、学生たちが真剣な顔をして汗を流していた。決勝が近づくと、プレーにも応援にも力が入り、会場の熱気は高まった。最終種目であった駅伝では、ゴール付近に人だかりができ、各々のチームのアンカーを待ち構えていた。普段から運動をしている人もしていない人もみんなスポデーに興じていた。

1日目に陸上競技場で開催されていたスポーツチャレンジ(通称スポッチャ)ではミニバスケット、キックターゲット、スピードガン体験など楽しい企画が満載だった。なかでもスピードガン体験は、野球でおなじみのボールの速さだけでなく、テニスのサーブやバットのスイングの速さなども測ることができ楽しんでいた。また、参加した企画の数によって得点が与えられ、上位入賞者には賞品が与えられるというシステムもあり、事前登録をしていない人も気軽に楽しむことができた。

会場各地で行われていた、(大庭夏海)



日頃より筑波スポーツを愛読賜り、ありがとうございます。この度は140号におきまして一部誤りがありました。誠に申し訳申しあげるとともに、左の通り訂正をお願いいたします。



訂正とお詫び

140号  
2面 関甲信結果一覧  
誤 弓道 女子3位  
正 弓道 女子優勝  
3面 弓道部女子団体  
1段目12行目  
正 湯山可奈子選手  
2段目12行目  
誤 湯山選手  
正 湯山選手

発行所/  
筑波大学体育会  
(TEL.029-853-2589)  
発行人/一杉 亮  
編集/  
筑波スポーツ編集部  
責任者/  
斉藤 千絵 (編集長)

編集スタッフ  
編集長  
斉藤 千絵 (比文3年)  
主務  
本間 詩織 (体育3年)  
有田 和晃 (シス情1年)  
板谷 悠人 (シス情1年)  
田村 俊和 (シス情1年)  
李 維悦 (人社1年)  
西島 拓也 (体育4年)  
山田 和幸 (社会4年)  
山川 晋弥 (自然4年)  
稲嶋 ひろな (社会3年)  
住田 有希恵 (体育3年)  
萩尾 奈緒香 (社会3年)  
明本 彩美 (比文2年)  
上杉 織美 (日体2年)  
小島 菜奈美 (資源2年)  
瀧川 香奈子 (比文1年)  
大庭 夏海 (人文1年)  
矢畑 冨佳 (人文1年)